

平成26年(1月～12月)  
関東管内の都市ガス事故発生状況  
(一般ガス事業・簡易ガス事業)

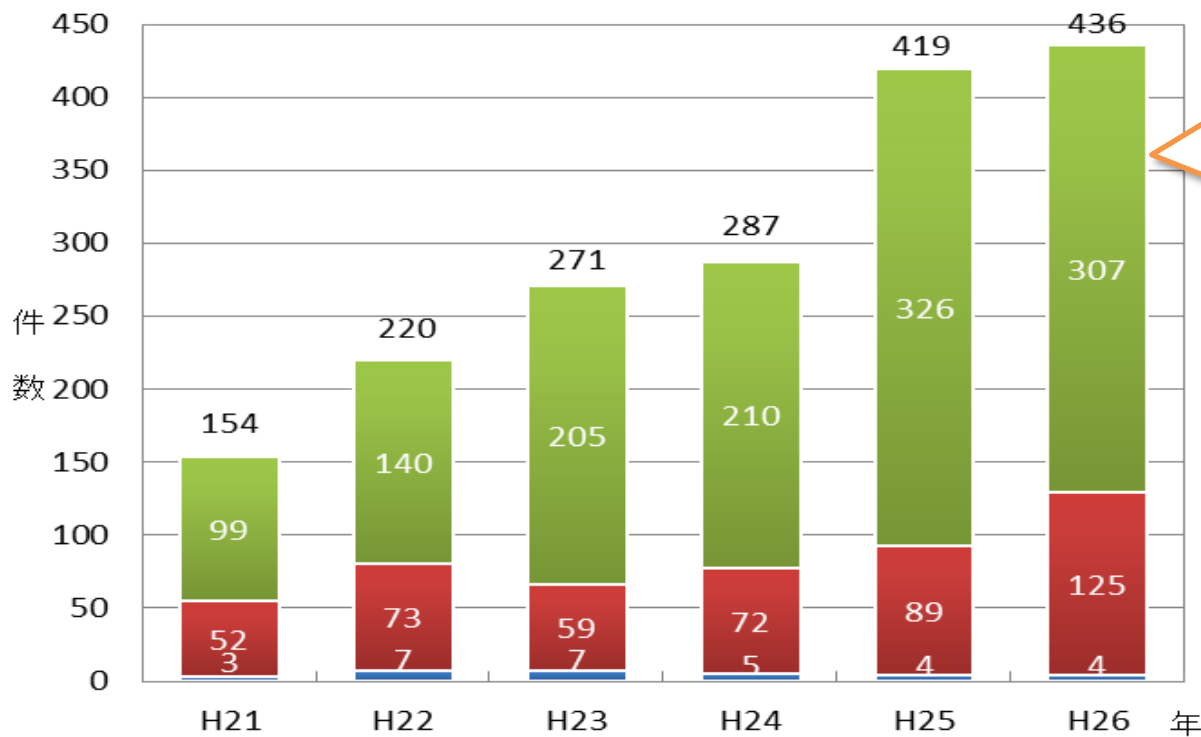
平成27年3月

経済産業省  
関東東北産業保安監督部  
保安課

# 事故件数の推移(一般ガス・簡易ガス)

- ▶ 平成26年(1月～12月)のガス事故件数は436件(前年から17件の増加)。
- ▶ 事業別では、一般ガスが416件(95.4%、前年から19件の増加)、簡易ガスが20件(4.6%、前年から2件の減少)。
- ▶ 段階別では、製造段階が4件(0.9%)、供給段階が125件(28.7%)、消費段階が307件(70.4%)。
- ▶ 近年の事故件数は増加傾向にあり、特に消費段階の事故の増加が著しい。

## ■平成21年からの事故件数の推移



### ●平成26年の内訳

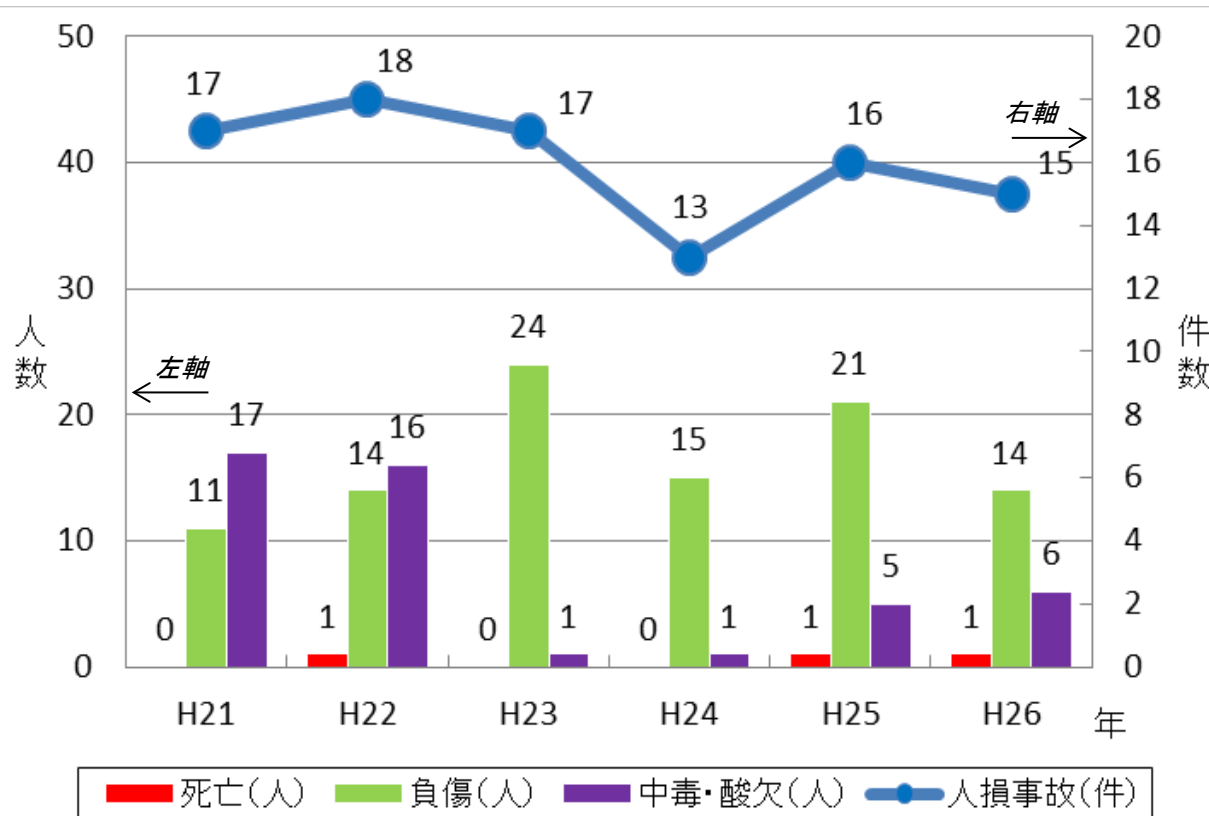
	一般ガス	簡易ガス
消費段階	300件 (68.8%)	7件 (1.6%)
供給段階	116件 (26.6%)	9件 (2.1%)
製造段階	0件 (0.0%)	4件 (0.9%)

■ 製造段階 ■ 供給段階 ■ 消費段階

# 人損事故の推移(一般ガス・簡易ガス)

- 平成26年の人損事故件数は15件、負傷者数は14人、ともに前年に比べ減少。
- 供給段階では、負傷者が前年に比べ大幅に減少した(15人→5人)。
- 消費段階では、死者1人の事故が発生したほか、負傷者が前年に比べ増加(6人→9人)、またCO中毒者も前年に比べ増加した(3人→6人)。

## ■平成21年からの推移



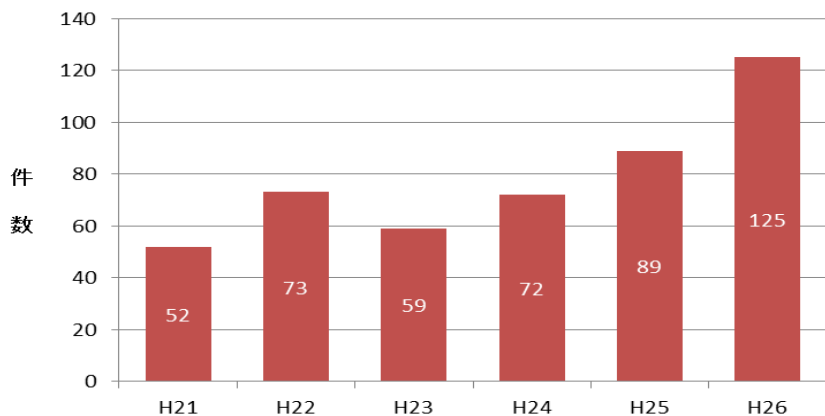
## ■平成26年の人損事故内訳

	死亡(人)	負傷(人)	中毒・酸欠(人)
製造段階	0 [0]	0 [0]	0 [0]
供給段階	0 [1]	5 [15]	0 [2]
消費段階	1 [0]	9 [6]	6 [3]

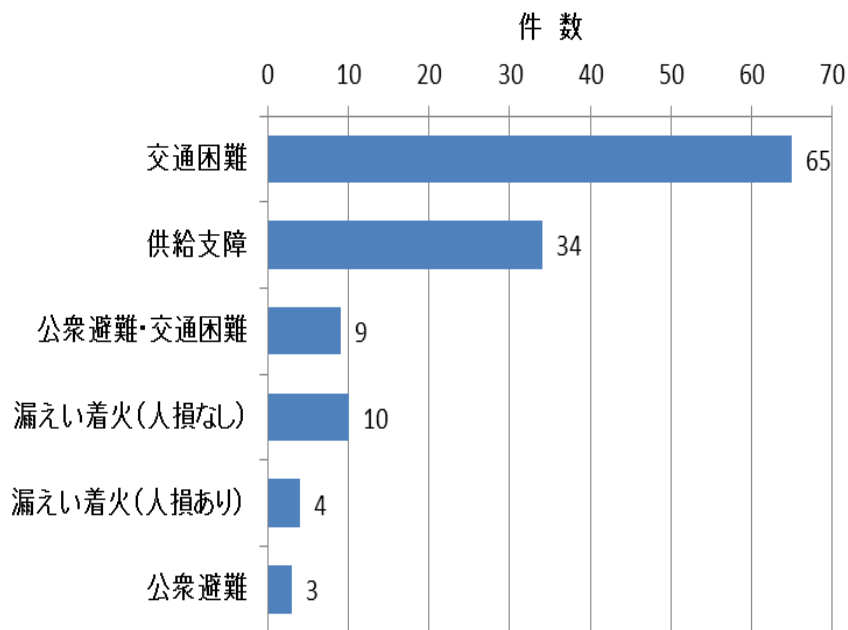
[ ]内は平成25年の人数

# 供給段階の事故

## 供給段階の事故件数推移

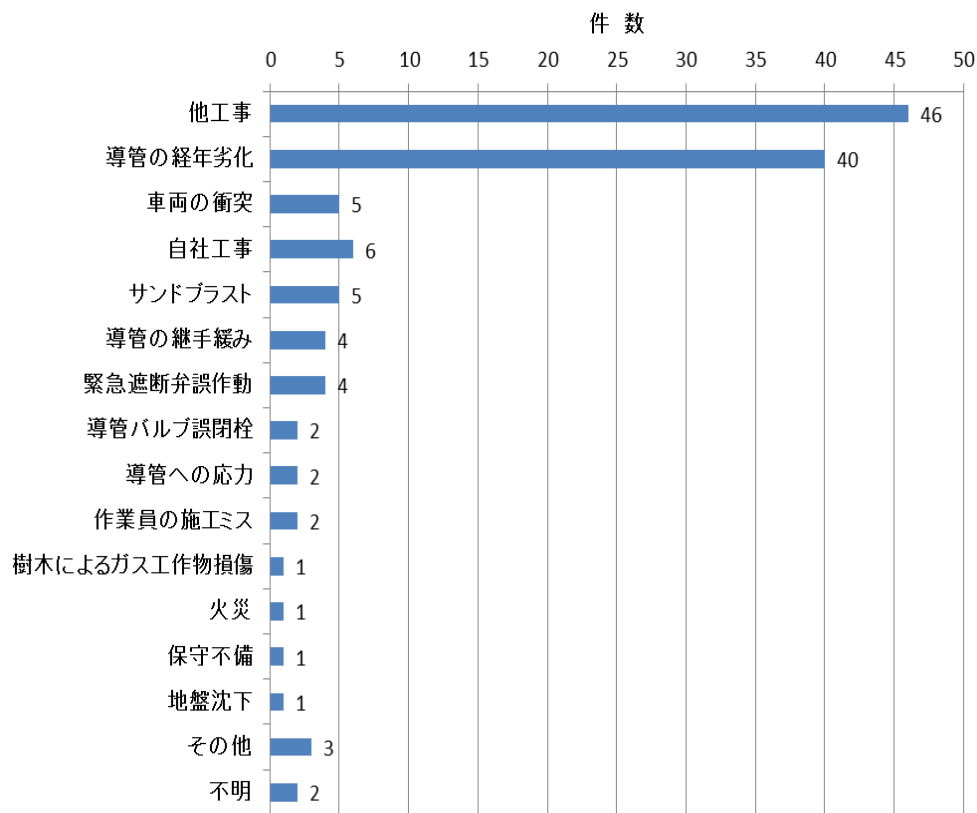


## ■ 事象別内訳(平成26年:125件)



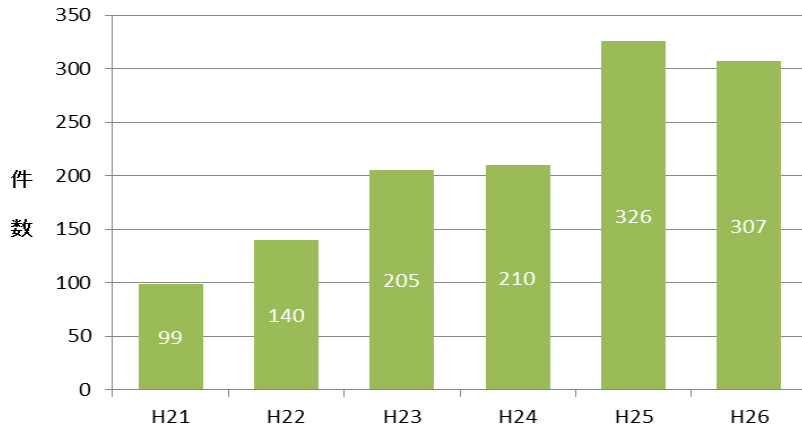
- 事象別内訳では、交通困難が最も多く65件(52.0%)、次いで供給支障が34件(27.2%)。
- 原因別の内訳では、他工事が最も多く46件(36.8%)、次いで導管の経年劣化によるものが40件(32.0%)。

## ■ 原因別内訳(平成26年:125件)



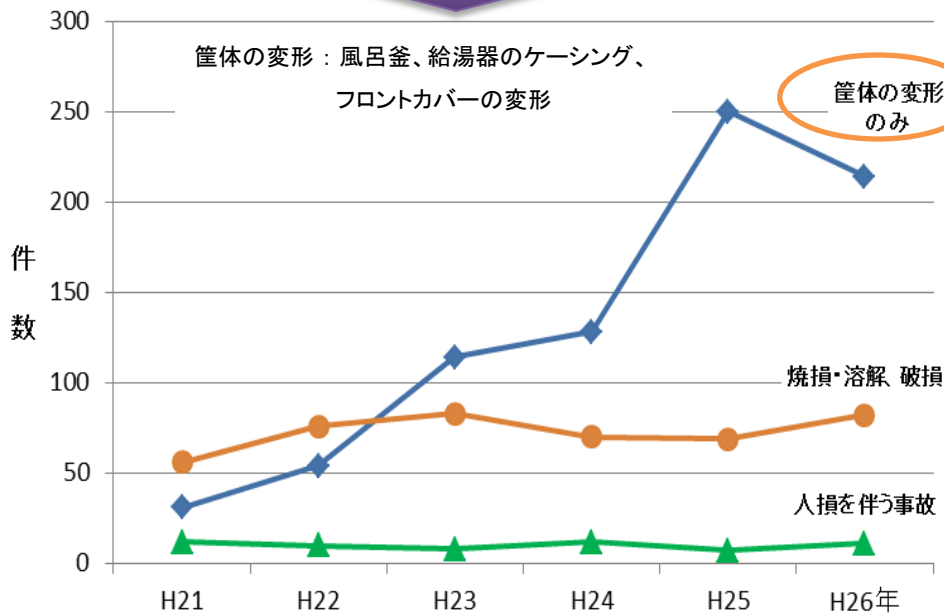
# 消費段階の事故

## 消費段階の事故件数推移

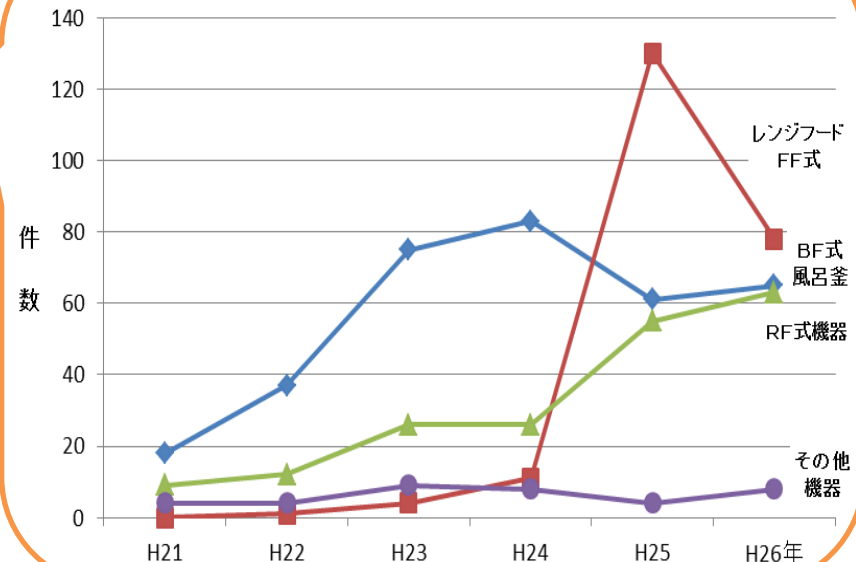


- ここ数年、消費段階の事故件数が毎年増加しているが、この要因は、繰り返し点火操作等による異常着火に伴う風呂釜等の変形事故が多く覚知されるようになったことが大きく寄与している。
- 特に、平成25年～26年は、特別点検が行われたレンジフード一体型FF式給湯器の変形事故が多く覚知された結果、消費段階の事故件数が大幅に増加した。
- また、雪による上方排気カバー閉塞に伴う排気口閉塞や養生による排気口閉塞等に伴うRF式風呂釜・給湯器の変形がここ1～2年増加している。

内訳

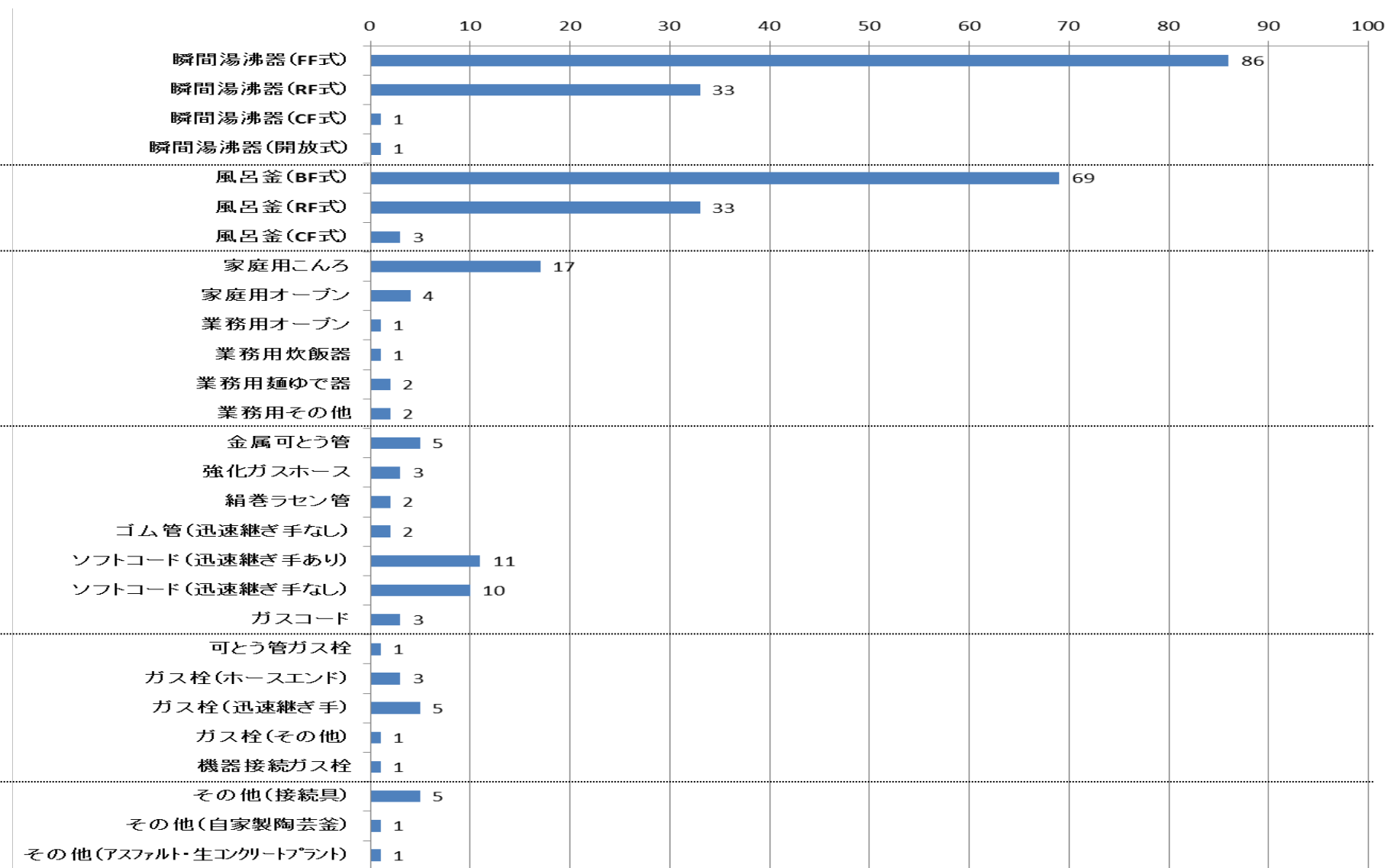


## 変形機器の内訳



# 消費段階の事故

## ■消費機器別内訳(平成26年:307件)

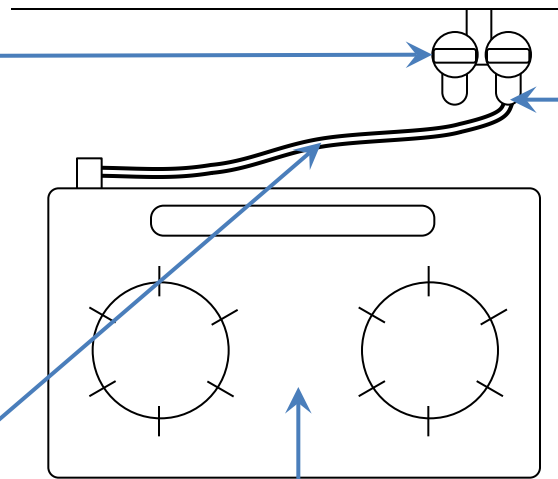


# 消費段階の事故事例

## ■ 家庭用こんろ及びその周辺での主な事故事例(平成26年の件数)

### ✓ 不使用ガス栓の誤開放 (11件)

ガス栓キャップの取り付けが不完全な状態で不使用側のガス栓を誤開放し、過流出安全機構が作動しない程度の微量のガスが漏えいして着火



### ✓ ガス栓への接続不足 (12件)

ゴム管用ソケットをガス栓に接続する際に、差し込みが不十分であったことから微量のガスが漏えいして着火など



### ✓ ゴム管への熱影響 (4件)

ゴム管がこんろ又はグリルに近接することにより熱影響を受け、ゴム管が損傷したことからガスが漏えいして着火



### ✓ こんろ内部の焼損 (15件)

こんろ左前脚が欠落して傾き、ガス通路部が長期にわたりコンロ台と接触し、コンロ下の汚れ等により接触箇所が腐食が進行し、ガスが漏えいして着火したことなど



- ・こんろへの接続: 5件
- ・ファンヒーターへの接続: 4件
- ・炊飯器への接続: 2件
- ・その他: 1件